
『明晰夢』

梅花空木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『明晰夢』

【Nコード】

N0983H

【作者名】

梅花空木

【あらすじ】

学校で偶然エリオットが出会った少年は10年前死んだと言われるオズだった。オズに拒絶的な態度を取ってしまったエリオットは自分の態度を反省し、彼の夢をみる。

明晰夢それは夢だと自覚してみる夢…。

「あ、エリオット久しぶりー。」そう言って、義兄のギルバートの主のオズ・ベザリウスが立っていた。

「なっなんで、オマエがこんなところにいんだよっ！？つか、ここどこだ！？」驚きと、あの時の対応に後ろめたさを感じ、焦って言う。「なんでって…ひつどいなあーエリオット。これお前がみてる夢なのに。」少し困ったような笑顔でオズが言う。

「…は？俺のゆ…め？」

全くもって意味がわからない。

「つーまーりー？、お前が俺のことそんだけ想ってるってことじゃん？もあう素直になれよあ。」オズは完全にからかい口調だ。

「…オ…マエ…なんか誰が好きになるかあ！！！」一瞬でもそうかもと思ってしまった自分がいたことを隠す為怒鳴る。

オズが言った通り、あれは俺の夢だった。

でもなんでアイツが俺の夢に出てくるんだ。嫌がらせか？

「おはよう、エリオット。」

ノックの後、リーオが入ってくる。

「あれっ？なんか顔色いいよ？良い夢みたみたいだね。」エリオットの顔色チェックはリーオの仕事だ。別に頼んでないが、いつのまにかそういうことになった。

「良い夢…ではないかもしれないが、いつもの胸クソ悪い夢に比べたら全然よかったな。」オズの笑顔を思い浮かべながら答える。

「…クス…だから、寝言言ってたんだ。」にまっつと笑うリーオ。

「…ね…寝言っ!？」顔が赤くなるのが自分でもわかった。

「うん。オマエが好き…とかなんとか。」

「んなこと言ってるない!」慌てて否定する。

「…じゃあなんて言ったの?」

しれっと返すリーオ。

…こっこいつはめがって!改めて言わせようとしてやがる。

「…あー…と。…まっまずオズの夢をみてだ、な…。夢にみるくらい俺のこと想ってたんだとか奴がぬかすから…大嫌いだと言った…んだ。」

しどろもどろで話す。

「あはは!やつぱ君はからかうと面白いなあ。」リーオが笑う。

「な…に…?もしかして…。」

「その通り!寝言なんて聞いてません。君って騙されやすいよねえーていうか単純?」リーオがいかにも面白そうに言うので、ますます腹が立つ。

「リーオ、貴様ー!!」怒鳴るが、やはり引つかかった自分に1番苛立つ。

「エリオット様、お電話です。」メイドが電話を持ってきた。

「誰からだ?」こんな早朝にかけてくるくらいの用だ。きつと急用に違いない。

「それが…オズと言えば分かると申されまして…。」困惑気味にメイドが答える。

(あいつが何の用だよ!?)半ば取り上げるようにメイドから電話を受け取る。

「…もしもし!？」

(夢にも出やがって何だっけ言うんだ。)

『うわぁー機嫌最悪な感じ?まっこっちも朝っぱらから悪いと思っただけどさぁー、でも久しぶりなのに、その対応ひどいよぉ。俺傷つ

いたー。』オズが悪びれもしていないいつもの調子で言う。

「…嘘こけ。」オズは平気で嘘をつく。付き合い浅いが、それは分かっていた。

『ハハツばれた？…それよりさ、聖騎士物語の番外編が出るの知ってるか！？』興奮した様子でオズが言う。

「なっ…何っ！？どんな話なんだ？」エリオットのテンションもみるみるうちに上がる。

聖騎士物語とはふたりが大好きな大人気小説で、ふたりの出会いもこの小説がきっかけのようなものだ。

『えー知りたい？』もったいぶってオズが言う。

「当たり前だ！というか、話す為に電話してきたんじゃないのか！…遊んでんなら切るぞ！！」

『わわっ、話すって。あのさエドガーがエドウィンに会う前までの話なんだって。だからエドガーが主役の話なんだよー！！もう待ってましたって感じだよ！読者の気持ちよく理解してるよねー！』

「…オズ…俺が誰のファンか知ってるよな！？」

『あれっ？エドガーじゃなかったけ？』わざとらしく言うオズ。

「…！！いい加減にしろ！！」

頭にきて受話器を投げそうになった。すると、

「ふふ。エリオットにあの時会えて、ああ言ってもらえて…俺すごく救われたよ。エリオット、ありがとう。」急に真剣なオズの声。

「…べっ別に…。俺は何も…。ただ思ったことを言っただけだし。

それより俺こそ変な態度とって、悪かった。」

『…気にしてないよ？』

「そっか。それだけがずっとひっかかってたんだ。」

『…くす…エリオットって優しいんだね。』オズにはエリオットの気遣いが嬉しかった。

「なっ…勘違いすんじゃないねえ！」照れ隠しにまた怒鳴り、電話を切った。

俺がオズをそこまで想っていたかは置いておくとしても…あの夢は、
確かに意味の有るものになった。そうオズに謝る勇気をくれたんだ
…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0983h/>

『明晰夢』

2011年1月24日05時47分発行